

## 【必修問題】

目標I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 健康に関する指標	A. 健康に関する指標	a. 総人口 b. 年齢別人口 c. 労働人口 d. 将来推計人口 e. 世帯数 f. 婚姻・家族形態
	B. 人口動態	a. 出生の動向 b. 死亡の動向 c. 死因の概要
	C. 健康状態と受療状況	a. 平均余命 b. 有訴者の状況 c. 有病率・罹患率 d. 受療行動・受療率 e. 入院期間 f. 外来受診状況
2. 健康と生活	A. 生活行動・習慣	a. 食事・栄養 b. 睡眠 c. 運動 d. 飲酒 e. 喫煙 f. ストレス g. メンタルヘルス h. ライフスタイル i. 性行動
	B. 労働	a. 職業と疾病 b. 労働環境 c. 雇用形態 d. 母性保護と両立支援
	C. 生活環境	a. 水・空気・土壤 b. 食品衛生

大項目	中項目	小項目
		c. 住環境・社会環境
3. 保健医療制度の基本	A. 医療保険制度	a. 医療保険の種類 b. 国民皆保険 c. 国民医療費 d. 高齢者医療制度 e. 給付の内容
	B. 介護保険制度	a. 保険者 b. 被保険者 c. 給付の内容 d. 要介護認定
4. 看護の倫理	A. 基本的人権の擁護	a. 個人の尊厳 b. 患者の権利 c. 自己決定権と患者の意思 d. インフォームドコンセント e. ノーマライゼーション f. 情報管理（個人情報の保護）
	B. 看護倫理	a. 看護職員の役割 b. 看護の倫理綱領 c. 倫理的葛藤と倫理調整
5. 関係法規	A. 保健師助産師看護師法	a. 保健師助産師看護師の業務 b. 看護師に禁止されている業務 c. 守秘義務 d. 業務従事者届
	B. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	a. 基本方針 b. 養成制度 c. 就業状況

目標Ⅱ. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 人間の特性	A. 人間と欲求	a. 基本的欲求 b. 社会的欲求
	B. 患者の特性	a. QOL b. 患者ニーズ

大項目	中項目	小項目
		c. 健康に対する意識 d. 疾病に対する意識 e. 疾病・障害の受容過程
7. 人間の成長と発達	A. 胎児期	a. 形態的発達 b. 先天性異常 c. 胎児期の異常
	B. 新生児期・乳児期	a. 発達の原則 b. 身体の発育 c. 運動能力の発達 d. 栄養 e. 親子関係 f. 先天免疫と獲得免疫
	C. 幼児期	a. 身体の発育 b. 運動能力の発達 c. 排泄の自立 d. 言語発達 e. 社会性の発達 f. 基本的生活習慣の確立
	D. 学童期	a. 運動能力・体力の特徴 b. 社会性の発達 c. 学習に基づく行動
	E. 思春期	a. 二次性徵 b. アイデンティティの確立 c. 親からの自立 d. 異性への関心
	F. 成人期	a. 社会的責任と役割 b. 生殖機能の成熟と衰退 c. 基礎代謝の変化
	G. 老年期	a. 運動能力・体力の変化 b. 知覚・感覚の変化 c. 認知能力の変化 d. 心理社会的変化 e. 個別性・多様性
8. 患者と家族	A. 家族の機能	a. 家族関係

大項目	中項目	小項目
		b. 家族構成員
	B. 家族形態の変化	a. 家族の多様性 b. 構成員の変化 c. 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響
9. 主な看護活動展開の場と看護の機能	A. 医療提供施設	a. 病院 b. 診療所 c. 助産所 d. 介護老人保健施設
	B. 保健所・市町村保健センターにおける看護活動	a. 保健所の業務 b. 市町村保健センターの業務
	C. 地域・在宅での看護	a. 在宅看護 b. 訪問看護ステーション c. 介護保険施設 d. 地域包括支援センター
	D. 看護管理	a. 看護体制 b. 看護チーム
	E. 関連職種との連携	a. 関連する職種 b. チーム医療 c. 看護の役割

目標III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。

大項目	中項目	小項目
10. 生命活動	A. 人体の構造と機能	a. 恒常性(ホメオスタシス) b. 血液・水・電解質 c. 体温 d. 感染防御と免疫反応 e. 循環器系 f. 呼吸器系 g. 神経系 h. 消化器系 i. 泌尿器系 j. 代謝・内分泌系 k. 骨・筋系 l. 性と生殖器系 m. 遺伝
	B. 正常な妊娠・分娩・産褥	a. 妊娠の成立 b. 妊娠の経過

大項目	中項目	小項目
		c. 分娩の経過 d. 産褥の経過
	C. 人間の死	a. 死の三徴候 b. 死亡判定 c. 脳死 d. 死の受容過程
11. 病態と看護	A. 症状と看護	a. 意識障害 b. ショック c. 発熱・低体温 d. 脱水 e. 黄疸 f. 頭痛 g. 咳嗽・喀痰 h. 吐血と咯血 i. チアノーゼ j. 呼吸困難 k. 胸痛 l. 不整脈 m. 腹痛・腹部膨満 n. 嘔気・嘔吐 o. 下痢 p. 便秘 q. 乏尿、無尿、頻尿 r. 浮腫 s. 貧血 t. 睡眠障害 u. 感覚の異常 v. 運動の異常（麻痺・失調） w. けいれん
12. 主要疾患と看護	A. 生活習慣病	a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症（アルコール・ニコチン・薬物）

大項目	中項目	小項目
		f. メタボリックシンドローム
	B. がん	a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 d. 治療 e. QOL f. 緩和ケア
	C. 感染症	a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌〈MRSA〉 c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症/後天性免疫不全症候群〈AIDS〉 g. 麻疹・風疹・水痘 h. 感冒〈かぜ症候群〉
	D. 外因性障害	a. 熱傷 b. 骨折 c. 創傷の治癒過程 d. 外傷性ショック e. 热中症 f. 虐待
	E. 精神疾患	a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 d. 心的外傷後ストレス障害〈PTSD〉
	F. 小児疾患	a. 気管支喘息 b. 小児感染症 c. 乳幼児突然死症候群〈SIDS〉 d. 先天性疾患
	G. 高齢者の疾患	a. 認知症 b. 骨粗鬆症
13. 薬物治療に伴う反応	A. 主な薬物の作用と副作用	a. 抗菌薬 b. 抗ウイルス薬

大項目	中項目	小項目
	B. 医薬品の安全対策	c. 抗がん薬 d. 強心薬・抗不整脈薬 e. 狹心症治療薬 f. 降圧薬・昇圧薬 g. 利尿薬 h. 副腎皮質ステロイド i. 糖尿病治療薬 j. 中枢神経作用薬 k. 麻薬 l. 消炎鎮痛薬  a. 混合の可否 b. 禁忌 c. 保存方法 d. 薬理効果に影響する要因 e. 誤薬

## 目標IV. 看護技術の基本を問う

大項目	中項目	小項目
14. 基本技術	A. コミュニケーション B. フィジカルアセスメント C. 看護過程	a. 言語的コミュニケーション b. 非言語的コミュニケーション c. 面接技法  a. バイタルサイン(体温・呼吸・脈拍・血圧)の測定と評価 b. 意識レベルの評価 c. 呼吸音聴取の方法と評価 d. 腸蠕動音聴取の方法と評価 e. 運動系の観察と評価：日常生活動作<ADL>・関節可動域<ROM>・徒手筋力測定<MMT>  a. 情報収集 b. アセスメント c. 計画立案 d. 実施 e. 評価

大項目	中項目	小項目
	D. 看護記録	a. 記録形式
15. 日常生活援助技術	A. 食事	a. 食事の環境 b. 食事介助の方法 c. 誤嚥の予防
	B. 排泄	a. 床上排泄 b. 導尿 c. 浸腸 d. 摘便 e. 失禁のケア f. ストーマ造設患者のケア g. ドレーンの管理
	C. 清潔	a. 入浴 b. 清拭 c. 口腔ケア d. 洗髪 e. 部分浴 f. 陰部洗浄 g. 整容 h. 寝衣交換
	D. 活動・休息	a. 睡眠 b. 移動・移送 c. 廃用症候群の予防
	E. ボディメカニクス	a. 体位 b. 体位変換の基本 c. 移動介助での基本
16. 患者の安全・安楽を守る技術	A. 療養環境	a. ベッド b. 病室環境 c. 共有スペース d. 居住スペース
	B. 医療安全対策	a. 転倒・転落の防止 b. 誤薬の防止 c. 患者誤認の防止 d. 誤嚥・窒息の防止 e. 情報伝達と共有・管理

大項目	中項目	小項目
		f. リスクマネジメント・セーフティマネジメント g. インシデントレポート
	C. 院内感染防止対策	a. スタンダードプリコーション b. 手洗いの方法 c. 無菌操作 d. 減菌と消毒の方法 e. 針刺し・切創の防止 f. 感染性廃棄物の取り扱い
17. 診療に伴う看護技術	A. 栄養補給	a. 経管栄養法 b. 経静脈栄養法
	B. 薬物療法	a. 与薬方法 b. 薬効・副作用（有害事象）の観察
	C. 輸液管理	a. 刺入部位の観察 b. 輸液ポンプの取り扱い c. 点滴静脈内注射の管理
	D. 採血	a. 穿刺部位 b. 採血方法
	E. 罂法	a. 罂法の種類と適応 b. 温罠法の方法 c. 冷罠法の方法
	F. 呼吸管理	a. 酸素吸入時の原則 b. 酸素ボンベの取り扱い c. 酸素流量計の取り扱い d. 鼻腔カニューラ e. 酸素マスク f. ネブライザー
	G. 吸引	a. 口腔・鼻腔吸引 b. 気管吸引 c. 体位ドレナージ
	H. 救急救命処置	a. 気道の確保 b. 人工呼吸 c. 心マッサージ d. 直流除細動器 e. 自動体外式除細動器<AED>

大項目	中項目	小項目
		f. 止血 g. 体温の保持・冷却
	I. 皮膚・創傷の管理	a. 包帯法 b. 創傷の管理 c. 褥瘡の予防・処置
	J. 災害看護	a. トリアージ b. 応急処置の原則 c. 搬送・移送 d. こころのケア

【人体の構造と機能】

目標Ⅰ. 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。

目標Ⅱ. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 生命と恒常性〈ホメオスタシス〉	A. 細胞・組織・器官	a. 細胞の構造 b. 遺伝子と遺伝情報 c. 組織 d. 器官
	B. 内部環境の恒常性〈ホメオスタシス〉	a. 体液 b. 体液の電解質 c. 体液の酸塩基平衡 d. 体温
	C. 生体のリズム	a. サーカディアンリズム b. 睡眠と覚醒
2. 血液	A. 血液の成分と機能	a. 血液の成分 b. 血液の物理化学的特性 c. 血液の働き d. 造血と造血因子
	B. 止血機構	a. 凝固と線溶
	C. 血液型	a. ABO式とRh式
3. 生体の防御機構	A. 非特異的生体防御機構	a. 生体表面〈皮膚・粘膜〉での防御機構

大項目	中項目	小項目
		b. 食細胞とサイトカイン c. 胸腺・脾臓・リンパ節
	B. 特異的生体防御反応〈免疫系〉	a. 免疫系の細胞 b. 抗原と抗体 c. 液性免疫 d. 細胞性免疫 e. アレルギー反応
4. 循環系	A. 心臓	a. 心筋 b. 刺激伝導系 c. 心臓の構造 d. 心臓の機能
	B. 血管系	a. 動脈系と静脈系 b. 肺循環と体循環 c. 冠循環 d. 脳循環 e. 脈拍 f. 血圧 g. 胎児の血液循環
	C. リンパ系	a. リンパ b. リンパ管
5. 呼吸器系	A. 呼吸器	a. 鼻腔の構造と機能 b. 咽頭・喉頭の構造と機能 c. 気管・気管支の構造と機能 d. 肺の構造と機能 e. 呼吸運動 f. 呼吸機能 g. 声帯と発声
	B. ガス交換	a. 外呼吸と内呼吸 b. ガス交換
	C. 酸素・二酸化炭素の運搬	a. 酸素 b. 二酸化炭素
6. 神経系	A. 神経細胞と神経組織	a. 神経細胞と情報伝達 b. 神経組織 c. 神経膠細胞

大項目	中項目	小項目
	B. 中枢神経系	a. 大脳の構造と機能 b. 視床と視床下部の構造と機能 c. 脳幹の構造と機能 d. 小脳の構造と機能 e. 脊髄の構造と機能 f. 脊髄反射 g. 中枢神経系の統合機能
	C. 末梢神経系	a. 脳神経 b. 脊髄神経と神經叢 c. 体性神経系 d. 自律神経系
7. 運動系	A. 骨格	a. 骨の構造と機能 b. 体の支柱 c. 四肢の骨 d. 頭蓋骨と胸郭
	B. 関節	a. 関節の構造と種類 b. 関節可動域<ROM>
	C. 骨格筋	a. 骨格筋の構造 b. 筋収縮の機構 c. 抗重力筋 d. 四肢の筋 e. 頸部の筋 f. 表情筋 g. 呼吸筋 h. 骨盤底筋
	D. 姿勢	a. 体位と構え
8. 感覚器系	A. 視覚	a. 眼球の構造 b. 視力と視野 c. 形状認知と色覚 d. 視覚の伝導路 e. 眼球運動 f. 眼球に関する反射
	B. 聴覚	a. 耳の構造 b. 聴覚と聴力

大項目	中項目	小項目
	C. 平衡覚	a. 平衡器官の構造 b. 平衡覚
	D. 味覚	a. 味覚受容器の構造と味覚
	E. 嗅覚	a. 嗅覚受容器の構造と嗅覚
	F. 体性感覚	a. 皮膚の構造と機能 b. 粘膜と粘膜 c. 皮膚の感覚受容器 d. 皮膚感覚の種類 e. 深部感覚の受容器
	G. 内臓感覚	a. 内臓感覚の受容器と認識
9. 内分泌系	A. ホルモンの種類	a. ホルモンの化学的性質と作用機序
	B. ホルモン分泌の調節	a. 調節ホルモン・拮抗ホルモン b. フィードバック機構
	C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能	a. 視床下部 b. 下垂体 c. 甲状腺 d. 副甲状腺〈上皮小体〉 e. 脾島 f. 副腎皮質 g. 副腎髓質 h. 消化管ホルモン i. 腎臓のホルモン j. 性腺ホルモン
	A. 咀嚼	a. 齒・口腔の構造と機能 b. 咀嚼
	B. 噫下	a. 咽頭の構造と機能 b. 食道の構造と機能 c. 噫下
	C. 消化と吸收	a. 胃の構造と機能 b. 十二指腸の構造と機能 c. 空腸・回腸の構造と機能 d. 結腸の構造と機能 e. 直腸・肛門の構造と機能 f. 肝臓・胆道の構造と機能

大項目	中項目	小項目
		g. 脾臓の構造と機能
11. 代謝	A. エネルギー代謝	a. 同化作用と異化作用 b. 酶素 c. 栄養所要量 d. 基礎代謝 e. 炭水化物の代謝 f. 脂肪の代謝 g. 蛋白質の代謝 h. 核酸の代謝 i. ビタミン・ミネラルの代謝
12. 泌尿器系	A. 尿の生成	a. 腎臓の構造 b. 通過 c. 再吸収と分泌
	B. 細胞外液の調節	a. 抗利尿ホルモンの作用 b. レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系
	C. 排尿	a. 尿管の構造と機能 b. 膀胱の構造と機能 c. 尿道の構造と機能
13. 生殖と老化	A. 女性の生殖系	a. 卵巣の構造と機能 b. 卵管・子宮・膣の構造と機能 c. 性周期 d. 妊娠・分娩・産褥 e. 乳腺
	B. 男性の生殖系	a. 精巣・精巣上体の構造と機能 b. 精子の形成 c. 付属生殖腺の構造と機能
	C. 受精と発生	a. 受精 b. 胎児の発生
	D. 成長と老化	a. 組織および臓器の形態的加齢変化 b. 組織および臓器の機能的加齢変化 c. 代謝機能の加齢変化

【疾病の成り立ちと回復の促進】

目標 I. 健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 疾病の成立と疾病からの回復	A. 疾病の原因	a. 疾病を引き起こす内的・外的要因 b. 疾病を引き起こす生活習慣
	B. 生体の回復力	a. 回復力に影響する身体・心理・社会的因素

目標 II. 疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 基本的な病変	A. 細胞の傷害	a. 萎縮 b. 変性 c. 壊死とアポトーシス
		a. 創傷とその治癒 b. 再生と修復 c. 肥大と過形成
		a. 循環障害 b. 炎症 c. 免疫異常<アレルギーと自己免疫疾患> d. 代謝障害 e. 老年症候群 f. 先天異常 g. 腫瘍
	D. 健康状態を脅かす微生物	a. 人と微生物のかかわり b. 微生物の種類と特徴 c. 微生物の感染経路と潜伏期間 d. 感染症 e. 薬剤耐性菌
		a. 健康な状態からの変化を確認する診断過程 b. 全身状態評価のための一般的検査 c. 特殊な検査
		a. 手術適応と外科的治療 b. 麻酔

大項目	中項目	小項目
		c. 放射線による治療 d. 輸液療法・輸血 e. リハビリテーション f. 臓器移植
	C. 疾病に対する薬物療法	a. 与薬 b. 薬物の体内動態、薬理作用、副作用（有害事象） c. 血糖降下薬 d. 心臓に作用する薬 e. 降圧利尿薬 f. 血液凝固に関する薬 g. 免疫抑制薬 h. 抗がん薬 i. 抗菌薬・抗ウイルス薬
	D. 医療による健康被害	a. 薬害 b. ウィルス性肝炎 c. クロイツフェルト・ヤコブ病

目標Ⅲ. 疾病の特性について理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 神経機能の障害	A. 中枢神経系の疾患	a. 脳血管系の循環障害 b. 頭蓋内圧亢進に伴う症状 c. 神經変性・脱髓性の疾患 d. 認知症 e. 中枢神経系の感染症 f. 頭部と脊椎の外傷 g. 脊椎の外傷と脊髄損傷 h. 中枢神経系の腫瘍 i. 二次的に意識障害・神經障害を起こす疾患
	B. 末梢神経系の疾患	a. ギラン・バレー症候群 b. 糖尿病性神経障害
	C. 感覚機能の障害	a. 視覚の障害 b. 聴覚・平衡覚の障害 c. 嗅覚と味覚の障害

大項目	中項目	小項目
		d. 皮膚の障害
5. 呼吸機能の障害	A. 気道と肺の疾患	a. 気道・肺の炎症 b. 気道の閉塞をきたす疾患<気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患> c. 肺循環障害<肺梗塞、肺塞栓症> d. 肺の腫瘍 e. 呼吸不全
6. 循環機能の障害	A. 心臓の疾患  B. 血管系の疾患	a. 先天性心疾患 b. 虚血性心疾患 c. 心筋症 d. 心不全 e. 不整脈 f. 心内膜炎と弁膜疾患  a. 動脈硬化症 b. 高血圧 c. 閉塞性動脈硬化症 d. 大動脈瘤 e. 静脈瘤
7. 造血機能の障害	A. 造血器の疾患	a. 貧血 b. 出血傾向と凝固・線溶系の異常 c. 白血球減少症 d. 造血器の腫瘍<白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髓腫>
8. 免疫機能の障害	A. 膜原病  B. アレルギー性疾患  C. 免疫不全	a. 全身性エリテマトーデス<SLE> b. 関節リウマチ c. シェーグレン症候群  a. 花粉症<アレルギー性鼻炎> b. 莩麻疹 c. 接触皮膚炎  a. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症
9. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害	A. 栄養バランスの不均衡による疾患	a. メタボリックシンドローム b. 肥満 c. 脂質異常症（高脂血症） d. 高尿酸血症と痛風

大項目	中項目	小項目
	B. 口腔と食道の疾患	e. 必須栄養素とエネルギーの不足による疾患 a. 口腔と食道の機能障害<咀嚼・嚥下機能の障害> b. 口腔・食道の疾患
	C. 消化管の疾患	a. 消化管の炎症と潰瘍 b. 消化管の腫瘍 c. イレウス
	D. 肝臓・胆嚢・脾臓の疾患	a. 肝臓・胆嚢・脾臓の炎症 b. 肝硬変 c. 肝臓・胆嚢・脾臓の腫瘍 d. 肝不全 e. 胆汁代謝・排泄の障害 f. 糖尿病
10. 排泄機能の障害	A. 泌尿器の疾患	a. 腎・尿路の炎症 b. 腎・尿路の腫瘍 c. 腎・尿路の通過障害 d. 肾不全
	B. 排便の障害	a. 便秘 b. 下痢
11. 内部環境調節機能の障害	A. 内分泌系の疾患	a. 下垂体の疾患 b. 甲状腺の疾患 c. 副甲状腺<上皮小体>の疾患 d. 副腎の疾患 e. 多発性内分泌腫瘍
	B. 体液の調節障害	a. 水と電解質の異常 b. 酸塩基平衡の異常
	C. 自律神経系の機能障害	a. 自律神経失調に伴う身体変化<不定愁訴>
12. 運動機能の障害	A. 骨・関節・筋肉の疾患	a. 骨折 b. 骨粗鬆症 c. 骨の腫瘍 d. 変形性関節症 e. 筋ジストロフィー f. 筋萎縮性側索硬化症<ALS>
	B. 活動や行動の制限による疾患	a. 褥瘡

大項目	中項目	小項目
13. 生殖機能の障害	A. 生殖器の疾患	a. 女性生殖器の疾患 b. 乳腺の疾患 c. 男性生殖器の疾患

#### 【社会保障制度と生活者の健康】

目標 I. 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間にについての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 生活基盤	A. 生活単位	a. 人口動向（少子高齢化、総人口の減少） b. 家族〈世帯〉 c. ライフサイクル
	B. 家庭生活の基本機能	a. 生産・労働 b. 教育・養育 c. 保健・福祉 d. 生殖 e. 慰安・交流
	C. 生活の場と健康	a. 都市と農・漁村（人口集中と過疎化） b. 住居
	D. 労働と健康	a. 就業構造 b. 労働時間 c. 仕事と余暇 d. 所得
2. ライフスタイル	A. 家族の機能と役割	a. 夫婦の役割機能の変化 b. 家族内介護者の変化 c. 育児と介護の社会化 d. 家事機能の変化
	B. ライフスタイルの変化	a. 雇用労働の進行 b. 女性労働の変化 c. 少子化 d. 健康寿命の延長 e. 余暇時間 f. 生涯学習

大項目	中項目	小項目
		g. 地域活動への参加 h. 家族観の多様化
	C. 生活習慣の確立	a. 生活習慣病の概念 b. 発達課題別生活習慣 c. セルフケアの確立
3. 人間の集団としての働き	A. 集団の形成・発達	a. 集団の凝集性 b. 集団の意思決定 c. グループダイナミクス
	B. 地域における人間関係	a. 親族、近隣、交際のネットワーク b. 地域のソーシャルサポートネットワーク c. 学校における人間関係
	C. 職場における人間関係	a. 組織の中での役割 b. 上司との関係 c. 同僚との関係

目標Ⅱ. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 社会保障の理念	A. 保健医療福祉活動の基本方 向	a. 概念、目的、機能、体系、内容 b. 人権、日本国憲法25条 c. 倫理 d. ノーマライゼーション e. 情報公開、地方分権、参加 f. 社会保障給付費 g. 社会保障制度改革
5. 社会保険制度	A. 社会保険の変遷  B. 医療保険制度	a. 歴史、意義 b. 国民皆保険・皆年金  a. 健康保険、国民健康保険と高齢者の医療制度 b. 保険給付と利用者負担 c. 医療保険の財政 d. 保険診療の仕組み e. 公費負担医療 f. 国民医療費

大項目	中項目	小項目
	C. 介護保険制度	a. 制度の基本理念 b. 保険者・被保険者 c. 要介護・要支援の認定 d. 保険給付と利用者負担 e. ケアマネジメント f. 介護保険の財政 g. 介護保険事業計画
	D. 年金制度	a. 制度の体系 b. 給付と費用負担
	E. その他の社会保険制度	a. 雇用保険法 b. 労働者災害補償保険法
6. 社会福祉諸法の理念と施策	A. 社会福祉の理念と変遷	a. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法 b. 措置制度から選択、利用制度へ c. 利用者保護の制度
	B. 生活保護法と施策	a. 生活保護の基本原理と実施の原則 b. 実施機関 c. 扶助の種類と内容
	C. 障害者(児)の施策	a. 障害者基本法 b. 障害者自立支援法 c. 身体障害者福祉法 d. 知的障害者福祉法 e. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
	D. 児童への施策	a. 児童福祉法 b. 児童虐待の防止等に関する法律 c. 母子及び寡婦福祉法 d. 少子化対策
	E. 老人への施策	a. 老人福祉法
	F. その他の施策	a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律<DV法>
7. 社会福祉行政	A. 保健福祉計画	a. 子ども・子育て応援プラン b. 障害者基本計画と障害者プラン
	B. 社会福祉の民間活動	a. 民生委員、児童委員 b. 社会福祉協議会 c. ボランティア活動

大項目	中項目	小項目
	C. 国、地方公共団体の行政、組織およびマンパワー	d. 特定非営利活動促進法（NPO 法） a. 福祉事務所 b. 児童相談所 c. 社会福祉施設 d. 在宅サービス機関 e. 保健師 f. 理学療法士・作業療法士 g. 介護支援専門員（ケアマネジャー） h. 社会福祉士・介護福祉士 i. 精神保健福祉士
	D. 老人保健福祉行政の展開	a. 入所措置権の市町村への委譲 b. 市町村および都道府県の老人福祉計画 c. 高齢者の生きがい対策 d. 介護予防

目標Ⅲ. 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. 健康と公衆衛生	A. 公衆衛生の概念	a. 公衆衛生の領域、活動の特徴 b. プライマリヘルスケア c. ヘルスプロモーション d. 健康の概念 e. 世界保健機関（WHO）加盟国の役割
	B. 健康と環境	a. 生態学的環境 b. 物理化学的環境 c. 社会的環境 d. 身体的、精神・心理的影響
	C. 疫学的方法による健康の理解	a. 健康被害と母集団 b. 疫学的因果関係の推定 c. 臨床疫学とエビデンス
9. 健康指標と予防	A. 健康に関連した指標	a. 国勢調査 b. 人口静態 c. 出生 d. 死亡・死因

大項目	中項目	小項目
		e. 死産、周産期死亡、乳児死亡 f. 平均余命、平均寿命 g. 健康寿命 h. 有病率・罹患率
	B. 感染症とその予防	a. 感染症の成立要因 b. 感染症の流行現象 c. 感染症予防の基本 d. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法> e. 院内感染とその予防 f. 予防接種 g. 結核予防 h. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS>
10. 生活環境の保全	A. 地球環境	a. 地球温暖化 b. オゾン層の破壊 c. 酸性雨 d. 水質汚染 e. 大気汚染 f. 土壤汚染
	B. 食品管理および家庭用品	a. 食品安全確保対策 b. 食品衛生管理制度 c. 家庭用品の安全対策
	C. ごみ・廃棄物	a. 一般廃棄物と産業廃棄物 b. 市町村と企業の責任 c. 生活廃水処理
	D. 住環境	a. バリアフリー b. 室内空気汚染と健康問題
11. 保健活動	A. 地域保健	a. 地域保健法の理念と指針 b. 健康日本 21 c. 健康増進法 d. 市町村保健センター e. 保健所
	B. 母子保健	a. 母子保健法

大項目	中項目	小項目
		b. 母子健康手帳 c. 保健指導・訪問指導 d. 健康診査・健康教育 e. 養育医療 f. 健やか親子21 g. 児童虐待防止 h. 母体保護法
	C. 学童期の健康管理	a. 学校保健安全法 b. 健康診断・健康相談 c. 感染予防 d. 学校環境衛生
	D. 生活習慣病予防	a. 主な生活習慣病の現状 b. 栄養・運動・休養 c. 喫煙・飲酒 d. 健康教育と早期発見 e. がん対策基本法 f. 循環器疾患の予防 g. 糖尿病の予防 h. 特定健康診査、特定保健指導
	E. 難病対策	a. 特定疾患治療研究事業
	F. 職場の健康管理	a. 労働安全衛生法 b. 健康管理・職業病の予防 c. トータル・ヘルスプロモーション d. 作業環境・作業環境管理

目標IV. 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
12. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割	A. 保健師助産師看護師法	a. 目的・定義 b. 免許 c. 業務 d. 守秘義務
	B. 医療関係法規	a. 医療法 b. 医師法

大項目	中項目	小項目
		c. 薬剤師法 d. 診療放射線技師法 e. 臨床検査技師等に関する法律 f. 理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法 g. 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
	C. 医療サービスの供給体制	a. 医療施設の機能 b. 救急医療の充実 c. 診療記録・情報公開 d. 薬局の種類と機能 e. 在宅医療 f. 訪問看護ステーション g. 助産所 h. 医薬品と医療用具の取り扱い i. 毒薬・劇薬の取り扱い j. 医療過誤
	D. 看護職員の確保・労働と関係法規	a. 労働基準法 b. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法) c. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

### 【基礎看護学】

目標 I. 看護の基本となる概念についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 看護の基本となる概念	A. 看護の本質(概念)	a. ケアとケアリング b. 看護理論(ニード論、相互作用/人間関係論) c. 看護実践における理論知と実践知 d. 役割と機能 e. 対象者とその理解 f. 看護の変遷(ナイトンゲール、我が国の職業看護と教育制度)
	B. 人間と健康	a. 全体としての人間 b. 歴史的・関係的存在としての人間

大項目	中項目	小項目
		c. 成長発達する存在・ライフサイクルと健康のかわり d. 健康の諸定義、主観的健康と客観的健康 e. 健康の諸相 f. 健康への影響要因
	C. 生活と健康	a. 基本的ニーズとその充足 b. 生活習慣とセルフケア c. 文化的規範と学習 d. 基本的ニーズと健康とのかかわり e. 生活の安全と環境 f. QOL g. 健康への影響要因
	D. 看護倫理	a. 基本人権、世界人権宣言、個人の尊厳 b. 医療の倫理原則、ケアリングの倫理 c. 患者の権利 d. 患者の尊厳、権利の擁護と看護の役割 e. 専門職と倫理 f. 倫理綱領 g. 安全確保と抑制・拘束 h. インフォームドコンセントと自己決定、代理意思決定 i. プライバシー保護と個人情報保護 j. 終末期と看取りにおける患者・家族の意向確認と尊重
2. 看護の展開	A. 信頼関係の構築	a. 援助的人間関係 b. 共感、傾聴 c. 患者・利用者・家族との協同 d. 目標の共有
	B. 問題解決過程	a. 看護過程・看護診断の概念 b. 看護過程の構成要素 c. 看護理論と看護過程
	C. 看護実践過程	a. 根拠に基づいた看護 <ebn>の概念            b. クリティカルシンキング            c. リフレクション（プロセスレコードを含む）         </ebn>

大項目	中項目	小項目
		d. 看護チームアプローチ e. チームカンファレンス f. 情報の開示と患者参加の促進 g. 対象者への説明と同意の確認 h. 看護の安全な実施と対象者の反応の確認

目標Ⅱ. 基本的看護技術についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 共通基本技術	A. コミュニケーションの技術	a. コミュニケーションの構造・種類 b. グループワークの基礎知識 c. 看護面接技術 d. コミュニケーションに障害のある人々への対応
	B. 教育指導の技術	a. 教育指導のプロセス b. 対象者に合わせた指導方法と媒体の工夫 c. 個別指導・集団指導の特性、適用、メリット・デメリット d. 入院・退院時の援助
	C. 看護過程展開の技術	a. 情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合 b. 看護問題の明確化と優先順位決定 c. 看護目標の設定と計画 d. 評価 e. 看護記録の意義、必要性と種類 f. 報告の必要性と方法 g. 医療計画とクリニカルパス
	D. 観察技術	a. ヘルスアセスメントの基礎知識 b. インタビューの技術 c. 一般状態のアセスメントと評価
	E. 感染予防の技術	a. スタンダードプリコーション b. 感染症予防 c. 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作 d. 感染性廃棄物の取り扱い e. 感染症発生時の対応 f. 針刺し事故防止

大項目	中項目	小項目
	F. 安全管理の技術	a. 安全管理対策 b. 誤与薬の起こりやすい状況と対策 c. 転倒・転落の起こりやすい状況と対策 d. チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 e. インシデント、医療事故、医療過誤の概念と内容 f. インシデントレポート、医療事故報告の目的と活用
	G. 安楽確保の技術	a. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 b. 体位の種類と身体への影響、安楽な姿勢・体位の特徴 c. 身体ケアを通じてもたらされる安楽 d. 安楽を保つための医療環境の調整
	H. 死亡時のケア	a. 死の兆候 b. 死後の処置 c. 遺族へのかかわり
4. 基本的日常生活援助技術	A. 環境を整える技術	a. 環境の調整 b. 病床の整備
	B. 食生活の援助技術	a. 食事栄養の意義 b. 食物選択に影響する要因 c. 健康な食生活と食事摂取基準 d. 栄養状態の評価 e. 食行動に影響する要因のアセスメント f. 食事摂取の援助方法 g. 病人の食事 h. 経管栄養法 i. 経静脈栄養法
	C. 排泄の援助技術	a. 排泄行動に影響する要因のアセスメント b. 排泄物とその観察 c. 自然な排便・排尿を促す援助方法 d. トイレ歩行・ポータブルトイレの援助方法 e. 床上での尿器・便器・おむつによる援助方法 f. 洗腸・摘便 g. 導尿・膀胱留置カテーテル

大項目	中項目	小項目
	D. 活動・休息の援助技術	h. 尿失禁・便失禁の種類と援助方法 a. 活動・運動に影響する要因のアセスメント b. 体位変換 c. 床上移動 d. 車椅子への移動・移送 e. ストレッチャーへの移動・移送 f. 療養生活におけるレクリエーション g. 休息・睡眠に影響する要因のアセスメント h. 睡眠を促す援助方法
	E. 清潔・衣生活の援助技術	a. 清潔行動に影響する要因のアセスメント b. 身体各部の清潔の援助方法 c. 病衣の選択 d. 寝衣交換
5. 診療に伴う技術	A. 呼吸・循環を整える技術	a. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 b. 酸素吸入の適応と方法 c. 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO2>の測定 d. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引 e. 胸腔ドレナージの管理 f. 排痰法 g. 温罨法・冷罨法 h. 保温・体温管理
	B. 創傷管理技術	a. 創傷の種類・治癒過程と観察 b. 梔瘍の予防、処置 c. ドレッシング・包帯法
	C. 与薬の技術	a. 薬剤の作用・投与量・投与法による生体への影響、 起こりやすい合併症、生活への影響 b. 薬剤の種類と取扱方法 c. 与薬法 d. 副作用の徴候の観察
	D. 救急救命処置技術	a. バイタルサインのアセスメント b. 一次救命処置 c. 止血法
	E. 生体機能管理技術	a. 診察・検査時の看護師の役割 b. 検体検査と尿、便、喀痰、血液の採取方法

大項目	中項目	小項目
		c. 生体検査 d. 胸腔穿刺、腹腔穿刺、骨髓穿刺 e. 胃洗浄、膀胱洗浄 f. ME 機器の取り扱いとモニタリング

目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 看護の役割と機能を支える仕組み	A. 看護活動の場と専門分化	a. 地域・在宅における看護活動 b. 医療施設における看護活動 c. 保健福祉施設における看護活動 d. チーム医療における看護職の役割・活動 e. 看護職の各種資格と活動（認定看護師、専門看護師の活動を含む）
	B. 継続看護	a. 施設内における継続 b. 施設間継続 c. 施設と在宅間での継続（退院計画、指導を含む） d. 経時的变化に対する継続看護
	C. 保健医療福祉の連携	a. 他職種の役割 b. 他職種との連携 c. チームアプローチの概念
	D. 看護管理	a. 看護管理の概念 b. 看護組織と職務 c. 看護業務管理と看護基準 d. 安全管理（リスクマネジメント、ヒューマンエラー） e. 看護提供システム f. リーダーシップとフォロワーシップ g. 現任教育、継続教育、キャリア開発 h. 看護の質の保証と評価 i. 看護職員の労働安全衛生
	E. 看護制度、看護行政	a. 看護制度の変遷 b. 看護教育制度の変遷 c. 看護行政の組織

大項目	中項目	小項目
		d. 看護にかかる診療報酬 e. 看護職員の確保 f. 看護職員の労働環境
	F. 災害看護	a. 災害の定義、災害の種類と災害サイクル b. 災害時の制度と支援システムの構築 c. 被災者救援 d. 災害各期の看護支援 e. 災害時要援護者への支援
	G. 看護の展望と国際化	a. 異文化と看護 b. 看護の国際化

## 【在宅看護論】

目標 I. 在宅看護の特徴と在宅療養者および家族についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 在宅看護の対象者とその生活	A. 在宅看護の対象者	a. 疾病をもつ人と家族 b. 障害をもつ人と家族
	B. 対象者の生活	a. 生活の場の種類 b. 生活様式と価値観
	C. 在宅看護の提供方法	a. 外来看護 b. 訪問看護（自宅、施設） c. 通所施設での看護
2. 在宅看護の特徴	A. 自立支援と看護	a. 役割の確立 b. セルフケア c. 国際生活機能分類<ICF>の理解
	B. 病状・病態の予測と予防	a. ヘルスアセスメントの重要性 b. 病状経過の予測の重要性 c. 在宅での感染対策
	C. 生活の中で必要となる安全管理	a. 転倒の防止 b. 窒息の防止 c. 熱傷の防止 d. 閉じこもりの防止 e. 独居高齢者等と火災予防

大項目	中項目	小項目
		f. 虐待の防止 g. 災害対策
	D. 家族介護者の理解と健康支援	a. 家族介護者のアセスメント b. 家族関係の調整 c. 介護方法の指導 d. 家族介護者の健康 e. レスパイトケア
	E. 療養の場の移行に伴う看護	a. 退院に関する患者・家族の意向 b. 退院支援・退院調整のプロセス、仕組み c. 退院調整にかかる職種とその役割 d. 医療機関・施設・地域の連携システム
	F. チームケアの理解	a. 在宅チームケアの意義 b. 看護職同士の連携・協働 c. 他職種との連携・協働 d. 在宅ケアチームの実際の理解 e. 在宅ケアチームにおける看護の役割の理解
	G. ケアマネジメントと看護の役割	a. ケアマネジメントの概念 b. ケアマネジメントの過程 c. 社会資源の理解と活用 d. サービスの調整の実際 e. 介護保険との関係
	H. 在宅看護における倫理的課題	a. 自己決定支援 b. 権利擁護 c. 成年後見制度 d. 虐待防止 e. 情報管理

目標Ⅱ. 在宅における看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 訪問看護ステーションの理解	A. 訪問看護ステーションの成り立ち	a. 訪問看護ステーションの歴史 b. 訪問看護ステーションの機能 c. 訪問看護ステーションの課題

大項目	中項目	小項目
	B. 訪問看護ステーションの法的枠組み	a. 高齢者の医療の関係法規 b. 健康保険法 c. 介護保険法 d. その他関係法規
	C. 訪問看護ステーションの仕組みと利用	a. 訪問看護ステーションの職員 b. サービス開始までの流れ c. 看護サービス提供方法
4. 在宅における生活支援の方 法と技術	A. 食	a. 食事摂取能力のアセスメント b. 摂食・嚥下能力障害時のアセスメント c. 嚥下障害時の援助 d. 栄養補助食品の種類と選択方法 e. 口腔ケア
	B. 排泄	a. 排泄障害のアセスメント b. 排泄補助用具の種類と選択方法 c. 尿失禁の予防と援助 d. 便失禁への援助 e. 便秘の予防と援助
	C. 清潔	a. 清潔のアセスメント b. 在宅で実施する清潔方法の種類と方法 c. 清潔ケアと社会資源の活用
	D. 移動	a. 日常生活動作(ADL)・手段的日常生活動作(IADL) のアセスメント b. 移動時の安全確保 c. 居住環境のアセスメント d. 移動補助用具の種類と選択方法 e. 自立歩行に必要な筋力評価と強化方法
5. 在宅療養者の状態別看護	A. 長期臥床状態にある(寝たきり)療養者	a. 長期臥床状態のアセスメント b. 残存機能の維持向上 c. 合併症の予防と対応 d. 社会資源の活用
	B. 認知症療養者	a. 認知症のアセスメント b. コミュニケーション技術 c. 症状への援助 d. 社会資源の活用

大項目	中項目	小項目
	C. 難病の療養者	a. 特定疾患 b. 難病対策要綱 c. 急性増悪の早期発見と対応 d. 社会資源の活用
	D. ターミナル期の療養者	a. 症状コントロール b. 地域緩和ケアの実際 c. 看取りの看護 d. 遺族ケア
	E. 精神障害者	a. 症状アセスメント b. コミュニケーション技術 c. 症状への対応 d. 社会資源の活用
	F. 子どもの療養者	a. 療養者と家族の発達のアセスメント b. 発達に応じた対応 c. 合併症の予防 d. 社会資源の活用
6. 在宅における医療管理を必要とする人と看護	A. 在宅医療と社会制度	a. 在宅医療と診療報酬 b. 居宅等における医行為の実施に関する課題 c. 訪問看護師が行う診療の補助 d. 医師との連携 e. 在宅医療に必要な薬剤、医療材料、衛生材料の調達方法
	B. 薬物療法	a. 服薬状況の把握 b. 医師および薬剤師との連携 c. 居宅等における麻薬の取り扱い
	C. 酸素療法	a. 対象者 b. 機器の種類 c. 合併症の予防 d. 指導と安全管理
	D. 人工呼吸療法（非侵襲的換気療法を含む）	a. 対象者 b. 人工呼吸器の原理・構造 c. 気道浄化のケア d. 合併症の予防 e. 指導と安全管理

大項目	中項目	小項目
	E. 膀胱留置カテーテル法	a. 対象者 b. 合併症の予防 c. 指導と安全管理
	F. 胃瘻・経管栄養法	a. 対象者 b. 栄養剤の種類と特徴 c. 栄養評価 d. 合併症の予防 e. 指導と安全管理
	G. 中心静脈栄養法	a. 対象者 b. 栄養剤の注入方法 c. 栄養評価 d. 合併症の予防 e. 指導と安全管理
	H. 禢瘻管理	a. 禢瘻発生のリスクアセスメント b. 禢瘻発生予防 c. 寝具の種類と選択 d. 指導と安全管理

## 【成人看護学】

目標 I. 成人の生活と健康についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 成人の特徴	A. 生涯発達の特徴	a. 身体の発達 b. 心理社会的発達 c. ライフサイクルにおける発達課題
	B. 成人と生活	a. 生活状況の変遷 b. 家族形態と機能 c. 日常生活を取り巻く環境
2. 成人に特有な健康問題の特徴	A. 生活習慣に関連する健康問題	a. 生活習慣病の形成と予後 b. 生活習慣病の発生状況
	B. 職業に関連する健康問題	a. 就労条件・環境と病気 b. 職業病の発生状況

大項目	中項目	小項目
	C. 生活ストレスに関する健康問題	a. 生活ストレスと健康問題 b. ストレス関連疾患の発生状況

目標Ⅱ. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 成人の特性や能力に応じたアプローチ	A. 成人としての自立を支える援助	a. 健康行動の促進・阻害要因 b. ストレス・コーピング c. 成人教育の原理
	B. 家庭・職場で責任ある役割を担う人への援助	a. 社会的存在としての役割遂行
4. 健康の保持・増進、疾病の予防に向けたアプローチ	A. 生活習慣病の予防	a. 日常生活習慣の指標 b. 定期健康診断システム
	B. 職業性疾患の予防	a. 適切な作業環境と労働条件 b. 職業性疾患のアセスメントと対処
	C. ストレスの予防と緩和	a. ストレス状況と要因のアセスメント b. ストレスの緩和、解決方法

目標Ⅲ. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護	A. 救急救命時の看護	a. 緊急性と原因のアセスメント b. 心肺停止状態への対応 c. 気管挿管時の援助 d. 人工呼吸器装着時の援助 e. 急性中毒への対処 f. 外傷・熱傷・骨折の応急処置 g. 危機的状態への精神的支援
	B. 周手術期の看護	a. 術後合併症のリスクアセスメント b. 術後合併症の予防と指導 c. 術前の不安のアセスメントと援助 d. 術前のボディイメージの変容への援助 e. 手術体位とその影響 f. 手術・麻酔による影響と援助

大項目	中項目	小項目
		g. 術中の安全管理 h. 術後の疼痛管理 i. 術後合併症の予防 j. 早期回復促進への援助 k. 術後の機能障害と生活制限への援助
	C. 化学療法時の看護	a. 全身機能・骨髓抑制のアセスメントと対処 b. 抗がん薬投与時の管理とケア c. 心身・日常生活への援助
	D. 放射線療法時の看護	a. 全身機能・骨髓抑制のアセスメントと対処 b. 照射法と被曝防御 c. 放射線治療時の管理とケア d. 心身・日常生活への援助
6. 障害への適応と社会復帰への看護	A. 障害受容への援助	a. 障害受容への影響要因 b. 障害受容プロセスに応じた援助
	B. 障害の改善と克服への援助	a. 機能障害と日常生活動作のアセスメント b. 代償機能の獲得 c. 役割交代、職場調整 d. 身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用
	C. 社会参加への援助	a. 国際生活機能分類<ICF>の概念 b. 社会参加・生活満足の要素と影響因子
7. 慢性的な経過をたどる健康障害への看護	A. セルフケア行動形成・維持への援助	a. 病いとともに生きる人・家族の理解 b. 生活習慣・ライフスタイルの調整 c. セルフケア行動継続への援助 d. 自己概念・自己効力感の把握と支援
	B. 社会的支援の獲得への援助	a. 家族・患者会への支援 b. 特定疾患治療研究事業の適用
8. 終末期の看護	A. 終末期にある患者への援助	a. 全人的苦痛のアセスメント b. 疼痛コントロール c. 死の受容過程と援助 d. QOL の保証

## 目標IV. 機能障害のある成人への看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
9. 呼吸機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント  B. 呼吸機能障害のある患者の看護	a. 呼吸機能の検査と観察  b. 呼吸器症状の観察  c. 換気障害、ガス交換障害の程度と原因  d. 心身・日常生活への影響  a. 気管支鏡・造影検査時の援助  b. 胸腔穿刺検査時の援助  c. 胸腔鏡下手術時の援助  d. 抗アレルギー薬、気管支拡張薬、副腎皮質ステロイドの服薬指導  e. 吸入療法、胸腔ドレナージの管理  f. 呼吸困難・喀痰困難時の呼吸理学療法  g. 端息発作時の援助  h. 貧血によるガス交換機能、酸素運搬能の障害への援助  i. 肺切除術での看護  j. 慢性呼吸不全患者の看護
10. 循環機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント  B. 循環機能障害のある患者の看護	a. 循環機能の検査と観察  b. 循環機能障害の程度と原因  c. 心身・日常生活への影響  a. 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助  b. ペースメーカー装着時の援助  c. 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導  d. 抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導  e. 虚血性心疾患時の生活指導  f. 経皮的冠動脈形成術での看護  g. 開心術での看護  h. 慢性心不全患者の看護
11. 栄養摂取・代謝障害のある患者の看護	A. 咀嚼・嚥下障害の観察とアセスメント	a. 咀嚼・嚥下障害の検査と観察  b. 咀嚼・嚥下障害の程度と原因  c. 心身・日常生活への影響

大項目	中項目	小項目
	B. 咀嚼・嚥下障害のある患者の看護	a. 経管・経腸栄養法の管理と指導 b. 咀嚼・嚥下訓練 c. 嚥下障害部位に応じた食事摂取の援助 d. 喉頭・咽頭切除術での看護 e. 食道再建術での看護
	C. 消化・吸収障害の観察とアセスメント	a. 消化・吸収機能の検査と観察 b. 消化・吸収機能障害に伴う症状の観察 c. 栄養状態の把握 d. 消化・吸収障害の程度と原因 e. 心身・日常生活への影響
	D. 消化・吸収障害のある患者の看護	a. 中心静脈栄養の適用と管理 b. 消化管内視鏡・造影検査時の援助 c. 胆汁瘘の管理と指導 d. 腹痛・嘔吐・吐血・下血・下痢の看護 e. 胃・十二指腸潰瘍の生活指導 f. 脾炎の生活指導 g. 腹腔鏡下手術での看護 h. 胆囊摘出術での看護 i. 胃切除術での看護 j. 脾臓切除術での看護 k. 腸切除術での看護
	E. 肝機能障害の観察とアセスメント	a. 肝機能の検査と観察 b. 肝機能低下・肝不全に伴う症状の観察 c. 肝機能障害の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響
	F. 肝機能障害のある患者の看護	a. 肝生検時の援助 b. インターフェロン療法時の援助 c. 食道静脈瘤硬化療法の合併症予防 d. 食道静脈瘤の破裂予防と破裂時の対応 e. 肝庇護の生活指導 f. 肝性脳症の予防と生活指導 g. 胆管ドレナージの管理と援助 h. 肝動脈塞栓術での看護 i. 肝切除術での看護

大項目	中項目	小項目
	G. 糖代謝障害の観察とアセスメント	a. 糖代謝の検査 b. 肥満度、摂取・消費エネルギーの算出 c. 高血糖症状、低血糖症状の観察 d. 糖代謝障害の程度と原因 e. 心身・日常生活への影響
	H. 糖代謝障害のある患者の看護	a. インスリン療法、経口糖尿病薬の服薬指導 b. 血糖自己測定の指導 c. インスリン自己注射の指導 d. 糖尿病の食事・運動療法の指導 e. 糖尿病の合併症予防と生活指導
	I. 脂質・尿酸代謝障害の観察とアセスメント	a. 脂質・尿酸代謝の検査 b. 脂質・尿酸代謝機能障害に伴う症状の観察 c. 脂質・尿酸代謝障害の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響
	J. 脂質・尿酸代謝障害のある患者の看護	a. 脂質異常症（高脂血症）の生活指導 b. 高尿酸血症の生活指導
12. 内部環境調節障害のある患者の看護	A. 内分泌機能の観察とアセスメント	a. 甲状腺機能の検査と観察 b. 甲状腺機能障害に伴う症状の観察 c. 甲状腺機能障害の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響
	B. 内分泌機能障害のある患者の看護	a. 甲状腺切除術での看護 b. ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 c. ホルモンバランス失調状態の生活指導
	C. 体液調節機能の観察とアセスメント	a. 腎機能の検査と観察 b. 腎機能低下に伴う症状の観察 c. 体液不均衡の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響
	D. 体液不均衡のある患者の看護	a. 腎生検時の援助 b. 急性腎不全の病期に応じた生活指導 c. 慢性腎不全の病期に応じた生活指導 d. 透析療法の適用基準と選択 e. 血液透析・腹膜透析の管理 f. 維持透析の生活指導 g. 腎移植術での看護

大項目	中項目	小項目
	E. 体温調節機能の観察とアセスメント F. 体温調節機能障害のある患者の看護	a. 発熱・熱型と随伴症状の観察 b. 体温異常の程度と原因 c. 心身・日常生活への影響 a. 熱中症・高体温への援助 b. 低体温への援助
13. 生体防御機能の障害のある患者の看護	A. 免疫機能の観察とアセスメント B. 感染症の観察とアセスメント C. 免疫不全のある患者の看護 D. 免疫機能低下のある患者の看護	a. 炎症反応の観察 b. 免疫機能低下の程度と原因 c. 心身・日常生活への影響 a. 热型の観察 b. 感染症に伴う症状の観察 c. 感染症の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響 a. 膜原病患者の看護 b. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症／後天性免疫不全症候群<AIDS>での生活指導 a. 骨髓穿刺時の援助 b. 感染の予防と生活指導 c. 臓器移植での看護 d. 骨髄移植・幹細胞移植での看護 e. 白血病患者の看護 f. アレルギー疾患患者の看護 g. 臓器移植時の倫理的配慮
14. 感覚機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント B. 感覚機能障害のある患者の看護	a. 感覚機能の検査と観察 b. 感覚機能障害に伴う症状の観察 c. 感覚機能障害の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響 a. 点眼薬投与時の援助 b. 感覚障害への生活指導 c. 鼓室形成術での看護
15. 脳・神経機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 脳・神経機能の検査と観察 b. 言語の表出と理解の観察 c. 頭蓋内圧亢進症状の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響

大項目	中項目	小項目
	B. 脳・神経機能障害のある患者の看護	a. 隅液検査時の援助 b. 意識障害への援助 c. 注意・記憶障害への援助 d. 失語・構音障害への援助 e. 脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出術での看護 f. 若年性認知症患者の看護 g. 脊髄損傷患者の看護
16. 運動機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 運動機能の検査と観察 b. 日常生活動作の観察 c. 運動機能障害の程度と原因 d. 心身・日常生活への影響
	B. 運動機能障害のある患者の看護	a. 脊髄腔造影検査(ミエログラフィ)時の援助 b. 効果的な固定法・牽引法への援助 c. ギプス固定・各種牽引療法時の援助 d. 関節可動域訓練時の援助 e. 筋力増強訓練時の援助 f. 骨折の観血的整復術時の援助 g. 人工関節置換術での看護 h. 関節リウマチ患者の看護
17. 排泄機能障害のある患者の看護	A. 排尿機能障害の観察とアセスメント	a. 排尿機能の検査と観察 b. 尿排泄障害の程度と原因 c. 心身・日常生活への影響
	B. 排尿機能障害のある患者の看護	a. 尿流動態検査、膀胱鏡検査時の援助 b. 膀胱留置カテーテルの管理 c. 間欠的自己導尿法の指導 d. 腹圧性尿失禁の運動訓練と生活指導 e. 脊髄損傷による排尿障害への援助 f. 脳卒中による排尿障害への援助 g. 尿路変更術での看護
	C. 排便機能障害の観察とアセスメント	a. 排便機能の検査と観察 b. 排便機能障害の程度と原因 c. 心身・日常生活への影響
	D. 排便機能障害のある患者の看護	a. 大腸内視鏡検査、直腸診時の援助 b. イレウスの予防と生活指導

大項目	中項目	小項目
		c. 脊髄損傷による排便障害への援助 d. 脳卒中による排便障害への援助 e. 直腸切除術・人工肛門造設術での看護
18. 性・生殖機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 生殖・性機能の検査 b. 生殖器・性機能障害に伴う症状の観察 c. 性行動・性生活の把握 d. 生殖・性機能障害の程度と原因 e. 心身・性生活・日常生活への影響
	B. 性・生殖機能障害のある患者の看護	a. 内診、性機能検査時の援助 b. 勃起障害に対する薬物療法時の援助 c. 脳卒中および脊髄損傷による性機能障害への援助 d. 前立腺摘出術での看護 e. 子宮・卵巣摘出術での看護 f. 乳房切除術での看護

## 【老年看護学】

目標 I. 老年期を生きる人々の生活と健康についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 老年期の理解	A. ライフサイクルからの老年期の理解	a. 老年期の定義 b. 加齢と老化
	B. 人口学的指標からの老年期の理解	a. 高齢者人口の推移 b. 前期・後期高齢者人口の年代別構成 c. 性差 d. 地域格差
	C. 健康指標からの老年期の理解	a. 平均寿命・健康寿命 b. 疾病構造と有病率・有訴率 c. 受療行動・受療の動向 d. 要介護高齢者の出現率と動向 e. 死亡率、死因、死亡場所
	D. 生活の視点からの老年期の理解	a. 生活の構造 b. 生活のリズムと生活習慣 c. 役割と社会活動・余暇活動

大項目	中項目	小項目
		d. 家族・世帯構成 e. 住宅と環境 f. 就労・雇用 g. 収入・生計
2. 老年期を生きる人々の特徴	A. 老年期の発達と成熟	a. 老年期における発達と成熟の意味 b. 老年期の発達課題 c. 人格と尊厳 d. 喪失体験 e. 高齢者のスピリチュアリティ
	B. 高齢者の多様性	a. 高齢者の人生と経験の意味 b. 高齢者の生活史 c. 値値観の多様性 d. 健康状態の多様性 e. 生活習慣・生活様式の多様性
3. 老年期を生きる人々の健康	A. 加齢に伴う変化	a. 加齢に伴う変化の特徴 b. 身体的機能の加齢変化 c. 精神的機能の加齢変化 d. 社会的機能の加齢変化
	B. 高齢者にとっての健康	a. 老年期の健康のとらえ方 b. 高齢者の健康の特徴 c. 生きがいと生活の満足感
4. 高齢者をとりまく社会	A. 高齢者と家族	a. 高齢者と家族のライフサイクル b. 家族構成の変化 c. 家族形態の変遷 d. 高齢者と家族の人間関係
	B. 高齢者と社会システム	a. 高齢者の社会参加 b. 高齢者ソーシャルサポート c. 高齢者サービスシステム

目標Ⅱ. 健康レベルや療養形態に応じた高齢者と、その家族に対する看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 老年看護の基本的考え方と課題	A. 高齢者と QOL	a. 高齢者の尊厳と権利擁護<アドボカシー> b. ノーマライゼーション

大項目	中項目	小項目
	B. 老年看護活動の特性	c. 自立支援とエンパワメント a. 安全な生活への看護 b. 健康の保持増進と予防活動の重視 c. 疾病の回復への看護 d. 日常生活能力の維持・改善 e. 人生の終焉への看護 f. 家族との協働と家族看護 g. ケアの調整とリスクマネジメント h. チームアプローチ i. 老年看護活動の場の特質と看護
	C. 老年看護における倫理的課題	a. 自己決定 b. 資源の公平な分配 c. 高齢者差別(エイジズム) d. 高齢者虐待と関連法規 e. 成年後見制度 f. 社会福祉法における福祉サービス利用援助事業
6. 高齢者の生活を支える看護	A. 高齢者の生活機能と包括的アセスメント	a. 基本的日常生活動作(BADL)と手段的日常生活動作(IADL) b. 認知機能 c. 心理・情緒機能 d. 活動と社会参加 e. 生活環境
	B. コミュニケーション	a. コミュニケーション能力や高齢者とのコミュニケーションを阻害する影響要因のアセスメント b. 高齢者とのコミュニケーションの方法
	C. 歩行・移動	a. 歩行・移動動作のアセスメント b. 歩行・移動動作の援助
	D. 転倒	a. 高齢者の転倒予防の意義 b. 転倒発生の要因 c. 転倒予防のためのアセスメント d. 転倒予防のための援助
	E. 食生活	a. 食生活のアセスメント b. 食生活の援助
	F. 排泄	a. 排泄のアセスメント

大項目	中項目	小項目
	G. 清潔・衣生活	b. 排泄の援助 a. 清潔行為のアセスメント b. 更衣動作のアセスメント c. 清潔・衣生活の援助
	H. 活動と休息	a. 活動と休息のアセスメント b. 活動と休息の援助
	I. 性(セクシュアリティ)	a. セクシュアリティのアセスメント b. 健康なセクシュアリティへの援助
	J. 社会参加	a. 社会参加のアセスメント b. 生きがいややりがいがもてる社会参加への援助
7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	A. 脱水症	a. 高齢者の脱水症の病態と要因 b. 脱水症のアセスメント c. 脱水症の予防と援助
	B. 摂食・嚥下障害	a. 高齢者の摂食・嚥下障害の病態と要因 b. 摂食・嚥下障害のアセスメント c. 摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護 d. 誤嚥性肺炎の予防と援助
	C. 低栄養状態	a. 高齢者の低栄養状態の病態と要因 b. 低栄養状態のアセスメント c. 他職種との協働による栄養管理
	D. 瘙痒症	a. 高齢者の瘙痒症の病態と要因 b. 瘙痒症の症状と生活への影響のアセスメント c. 瘙痒症の予防と援助
	E. 尿失禁	a. 高齢者の尿失禁の病態と要因 b. 尿失禁のアセスメント c. 尿失禁を有する高齢者への援助
	F. 便秘・下痢	a. 高齢者の便秘・下痢の病態と要因 b. 便秘・下痢のアセスメント c. 便秘・下痢の予防と援助
	G. 睡眠障害	a. 高齢者の睡眠の特徴と睡眠障害の病態と要因 b. 睡眠障害のアセスメント c. 睡眠障害を有する高齢者への援助
	H. 視覚障害	a. 高齢者の視覚障害の病態と要因 b. 視覚障害の程度と生活への影響のアセスメント

大項目	中項目	小項目
		c. 白内障治療時の援助
	I. 聴覚障害	a. 高齢者の聴覚障害の病態と要因 b. 聴覚障害の程度と生活への影響のアセスメント c. 補聴器を使用する高齢者とその家族への援助
	J. 廃用症候群	a. 高齢者の廃用症候群の病態と要因 b. 廃用症候群予防のためのアセスメント c. 廃用症候群予防のための援助
	K. 骨粗鬆症	a. 高齢者の骨粗鬆症の病態と要因 b. 骨粗鬆症の症状と生活への影響のアセスメント c. 骨粗鬆症予防のための援助 d. 骨粗鬆症の治療と援助
	L. うつ病	a. 高齢者のうつ病の特徴と要因 b. うつ病の症状と生活への影響のアセスメント c. うつ病の治療と援助
	M. せん妄	a. 高齢者のせん妄の病態と要因 b. せん妄のアセスメント c. せん妄予防のための援助 d. せん妄発生時の治療と援助
	N. 認知症	a. 高齢者の認知症の病態と要因 b. 認知機能の評価方法 c. 認知症高齢者に対する基本的姿勢とコミュニケーション方法 d. 周辺症状と生活への影響のアセスメント e. 認知症の治療と援助 f. 認知症の療法的アプローチ g. 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム h. 認知症高齢者の権利擁護のための社会的支援・制度
	O. パーキンソン症候群（パーキンソニズム）	a. 高齢者のパーキンソン症候群の病態と要因 b. パーキンソン症候群の症状と生活への影響のアセスメント c. パーキンソン症候群の治療と援助
	P. 感染症	a. 高齢者の感染症の病態と要因

大項目	中項目	小項目
		b. 感染症の罹患予防と感染拡大の防止策
8. 治療を受ける高齢者への看護	A. 薬物療法	a. 加齢に伴う薬物動態の変化 b. 服薬管理とリスクマネジメント c. 薬物療法を受ける高齢者への援助
	B. 手術療法	a. 麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響 b. 高齢者の手術療法におけるインフォームドコンセントと看護の役割 c. 術前準備における高齢者への援助 d. 術中における高齢者への援助 e. 高齢者に起こりやすい術後合併症の予防と援助
	C. リハビリテーション	a. 高齢者に対するリハビリテーションの意義と特徴 b. リハビリテーションを受ける高齢者の看護
	D. 受療形態に応じた高齢者への看護	a. 入院時の看護 b. 外来診療時の看護 c. 検査時の看護 d. 退院計画と退院時の看護
9. 高齢者の終末期の看護	A. 高齢者の死にかかる権利と医療・ケア提供者の責務・役割	a. 高齢者の死亡の動向 b. 終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 c. 終末期における生き方や死の迎え方の意向（アドバンスディレクティブ<事前指示>、リビングウィル） d. 家族の参加と家族への支援 e. 多専門職種からなる医療・ケアチームによる終末期支援の意義と役割
	B. 終末期看護の実践	a. 身体兆候のアセスメントと看護 b. 苦痛の緩和と安楽への看護 c. 精神的苦痛や混乱に対する看護 d. 臨死期の評価と看護
	C. 看取りを終えた家族への看護	a. 家族の心理の理解と看護 b. 家族へのグリーフケア c. 家族の生活の再構築への看護

目標Ⅲ. 保健医療福祉制度の変革が老年看護に与える影響、看護師の果たす役割の変化についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
10. 介護保険と老年看護	A. 高齢者の保健医療福祉の関連施設における看護	a. 保健医療福祉の関連施設の看護 b. 介護療養型医療施設の特徴と看護 c. 介護老人保健施設の特徴と看護 d. 介護老人福祉施設の特徴と看護 e. 認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）の特徴と看護 f. 小規模多機能型居宅介護の特徴と看護
	B. 在宅高齢者の看護	a. 退院計画と退院調整 b. 生活の場の移転（リロケーション） c. チームケアと看護の役割 d. 事故の予防対策
11. 高齢者を介護する家族への看護	A. 介護家族の生活と健康	a. 要介護高齢者と家族の理解 b. 介護者の健康と介護力 c. 家族生活への影響
	B. 介護家族への看護	a. 家族介護状況の把握と分析 b. 家族援助の視点と看護 c. 介護力の評価 d. 介護適応への看護 e. 支援ネットワークづくり
	C. 家族介護の課題	a. 介護問題の社会的動向 b. 地域支援と市民参加 c. 介護の社会化と看護の役割

#### 【小児看護学】

目標Ⅰ. 子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 子どもと家族の看護の概念	A. 小児医療、小児看護の変遷	a. 小児医療の変遷 b. 小児看護の変遷
	B. 子どもの人権と看護	a. 子どもの権利と歴史的流れ

大項目	中項目	小項目
		b. 小児看護と倫理的配慮 c. 児童憲章 d. 児童福祉法、母子保健法、児童虐待の防止等に関する法律 e. 児童の権利に関する条約 f. 健やか親子 21 g. 権利擁護(アドボカシー) h. インフォームドアセント i. 子どもと家族をとりまく社会の変化 j. 虐待防止
2. 子どもの成長と発達	A. 成長・発達の原則	a. 一般的原則 b. 成長・発達に影響する因子
	B. 形態的・機能的発達	a. 形態的成長発達 b. 機能的発達
	C. 心理社会的発達	a. 認知 b. 情緒 c. 社会性 d. コミュニケーション e. 遊び f. 発達課題
	D. 発育・発達の評価	a. フィジカルアセスメント b. 身体発育の評価 c. 精神・運動機能の評価 d. 培育環境のアセスメント
3. 新生児の健康増進のための看護	A. 新生児の健康増進と安全な環境の提供	a. 低出生体重児 b. 栄養 c. 感染予防 d. 事故防止
	B. 新生児のいる家族への看護	a. 親子関係 b. 地域保健サービスの活用
4. 乳児の健康増進のための看護	A. 乳児の健康増進と安全な環境の提供	a. 離乳食 b. 運動と遊び c. 分離不安 d. 事故防止

大項目	中項目	小項目
	B. 乳児のいる家族への看護	a. 親子関係 b. 地域保健サービスの活用
5. 幼児の健康増進のための看護	A. 幼児の健康増進と安全な環境の提供	a. 基本的生活習慣の確立 b. 運動と遊び c. 予防接種 d. 事故防止
	B. 幼児のいる家族への看護	a. 家族関係 b. 地域保健サービスの活用
6. 学童の健康増進のための看護	A. 学童の健康増進とセルフケアの発達	a. セルフケアと保健教育 b. 食生活 c. 学校への適応 d. 学習と遊び e. 生活習慣病の予防 f. 第二次性徴 g. 安全教育 h. 学校保健
	B. 学童のいる家族への看護	a. 学童の情緒と家族関係
7. 思春期の子どもの健康増進のための看護	A. 思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立	a. セルフケアと保健教育 b. 食生活 c. 親からの自立 d. 異性への関心
	B. 思春期の子どものいる家族への看護	a. 子どもをとりまく社会環境 b. 子どもの問題行動と家族関係

目標Ⅱ. 健康障害のある子どもと家族が生活・療養するための看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	A. 病院環境とプレパレーション	a. 病院環境 b. 医療を受ける子どもの権利擁護と発達支援
	B. 病気や入院が子どもと家族に与える影響	a. 各発達段階にある子どもの病気の理解 b. 影響に関与する因子 c. 子どもへの影響 d. 家族への影響

大項目	中項目	小項目
	C. 病気になった子どもと家族の看護	a. 発達段階別の子どもと家族への看護 b. 入院各期の子どもと家族への看護 c. 計画入院・緊急入院時の子どもと家族への看護
9. さまざまな状況にある子どもと家族への看護	A. 外来における子どもと家族	a. 緊急性の把握 b. 感染症への対処 c. 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 d. 健康診査・育児相談
	B. 検査や処置を受ける子どもと家族	a. 発達に応じたプレパレーション b. 安全・安楽への看護 c. バイタルサインの測定 d. 身体計測 e. 採血 f. 採尿 g. 骨髄穿刺 h. 腰椎穿刺 i. 与薬 j. 注射 k. 輸液療法
	C. 活動制限が必要な子どもと家族	a. 活動制限の目的 b. 身体的・心理社会的影響 c. 子どもの発達段階に応じた看護 d. 子どもの日常生活にかかる家族の看護
	D. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族	a. 隔離の目的・方法 b. 身体的・心理社会的影響 c. 子どもの身体・情緒・発達面を考慮した日常生活の看護 d. 家族の面会や付き添いにおける看護
	E. ハイリスク新生児と家族	a. ハイリスク新生児の集中治療と看護 b. 親子・家族関係の促進
	F. 先天的な問題のある子どもと家族	a. 先天異常の種類と特徴 b. 子どもの発達段階に応じた看護 c. 子どもの先天的な問題に対する家族の理解と受容への看護 d. 子どもの養育とケア技術獲得に対する家族の看護

大項目	中項目	小項目
	G. 周手術期における子どもと家族	a. 子どもの手術の特徴 b. 手術を要する健康障害と手術の時期 c. 計画手術と緊急手術 d. 日帰り手術 e. 子どもと家族の準備状態の把握とプレパレーション f. 子どもの安全・安楽への看護と家族の看護 g. 退院に向けての看護
	H. 心身障害のある子どもと家族	a. 心身障害の種類と定義 b. 発達障害 c. 障害の受容 d. 経管栄養法 e. 子どもと家族の日常生活の看護と社会資源の活用
	I. 急性期にある子どもと家族	a. 発熱時の看護 b. 脱水時の看護 c. 呼吸困難時の看護 d. けいれん時の看護 e. 生命徵候が危険な状況にある子どもと家族への看護
	J. 慢性期にある子どもと家族	a. 小児慢性特定疾患治療研究事業 b. 病気の時間的経緯と急性増悪 c. 病気による子どもと家族の生活の変化 d. 学校の受け入れ e. 子どもの発達とセルフケアの獲得への看護 f. 家族への看護
	K. 痛みのある子どもと家族	a. 子どもの痛みの受け止め方 b. 痛みの表現方法 c. 痛みの客観的評価 d. 痛み緩和の看護
	L. 在宅における子どもと家族の看護	a. 入院生活から在宅への移行に向けた支援 b. 在宅療養の支援
	M. 終末期にある子どもと家族	a. 子どもの死の概念 b. 死に対する子どもの反応と看護 c. 子どもへの病気の説明

大項目	中項目	小項目
		d. 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア e. 子どもの死を見取る家族の反応と看護
	N. 救急救命処置が必要な子どもと家族	a. 子どもの事故 b. 主な誤飲物質と処置 c. 子どもの熱傷の特徴・重症度および処置 d. 溺水と処置 e. 子どもの一次救命処置 f. 乳幼児の意識レベル g. 吸引 h. 酸素療法 i. 救急処置を受ける子どもと家族の不安の緩和
	O. 災害を受けた子どもと家族	a. 災害による子どものストレス b. 災害時の子どもと家族への看護

#### 【母性看護学】

目標 I. 母性看護の対象となる人々、関連する保健医療のしくみ、倫理的問題、人間の性と生殖のしくみについての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 母性看護の概念	A. 母性看護の主な概念	a. 母性の概念・母性の発達 b. 性役割 c. 家族の発達・機能
	B. 母性看護と倫理	a. 妊産権婦・胎児および新生児の権利と擁護 b. 自己決定の尊重 c. プライバシーの保護 d. 人間の性と生殖や医療における倫理（出生前診断、胎児治療、高度生殖医療、人工妊娠中絶、ハイリスク児の医療）
	C. 母性看護と法整備	a. 子育て支援施策 b. 母性の就労の関係法規 c. 母体保護法 d. 母子保健法

大項目	中項目	小項目
	D. 周産期医療・生殖医療におけるチーム医療	a. チーム医療の必要性 b. 職種間の連携・協働
2. 人間の性と生殖	A. ヒトの発生と遺伝的要素	a. 発生・分化のメカニズム b. 染色体・遺伝子
	B. 性と生殖の機能のメカニズム	a. 性周期 b. 生殖機能のメカニズム c. 性反応 d. 受胎のメカニズム

目標Ⅱ. ライフサイクル各期にある女性のリプロダクティブヘルスの維持増進、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 女性のライフサイクル各期における看護	A. 思春期・成熟期・更年期 女性のリプロダクティブヘルスの課題と看護	a. 第二次性徵 b. 性意識・性行動の発達 c. 性感染症 d. 家族計画 e. 不妊症 f. ホルモンの変化と閉経 g. 更年期症状と看護
4. 周産期にある人と家族の看護	A. 妊娠の生理と妊婦の看護 B. 分娩の生理と産婦の看護 C. 産褥の生理と褥婦の看護	a. 妊娠の経過と胎児の発育 b. 妊婦の心理 c. 妊娠と不快症状 d. 妊婦の日常生活とセルフケア e. 出産・育児の準備 f. 親役割の準備 a. 分娩の経過と胎児の健康状態 b. 産婦の基本的ニーズと看護 c. 産痛の緩和 d. 産婦と家族の心理 a. 産褥の経過 b. 褥婦の心理 c. 褥婦の日常生活とセルフケア d. 親役割への支援

大項目	中項目	小項目
	D. 新生児の生理と看護	a. 新生児の生理 b. 新生児の適応と看護 c. 親子関係

目標Ⅲ. 周産期にあるリスク因子をもつ母児に対する看護実践に必要な基礎的知識についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. ハイリスクな状況にある人 と家族の看護	A. ハイリスク妊婦の看護	a. 妊娠経過の健康逸脱（流産、早産、感染症、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、妊娠高血圧症候群）と看護 b. 出生前診断と看護
	B. ハイリスク産婦の看護	a. 分娩経過の健康逸脱（前期破水、帝王切開術、産科出血）と看護 b. 胎児機能不全
	C. ハイリスク褥婦の看護	a. 産褥経過の健康逸脱（肺塞栓、復古不全、産褥熱、乳腺炎、産後うつ）と看護 b. 帝王切開術後の看護 c. 死産、障害をもつ新生児を出産した親の看護
	D. ハイリスク新生児の看 護	a. 早産児、低出生体重児の看護 b. 先天異常、障害をもつ新生児の看護

#### 【精神看護学】

目標Ⅰ. 精神の健康概念とその保持・増進のための看護の基本概念についての理解を問う。

目標Ⅱ. 患者の人権と安全を守り、精神医学の診断・治療を理解した看護実践についての理解を問う。

目標Ⅲ. 精神障害者の地域生活を支えていくための援助についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 精神の健康	A. 精神の健康	a. 精神の健康の概念 b. 精神障害の第一次予防、第二次予防、第三次予防
	B. 心の健康に関する普及啓 発	a. こころのバリアフリー宣言 b. 新健康フロンティア戦略 c. 健康日本 21

大項目	中項目	小項目
	C. 精神の機能	a. 意識と見当識 b. 知的機能 c. 知覚 d. 思考 e. 感情 f. 意欲と衝動コントロール g. 記憶 h. 注意と集中 i. 自我機能 j. 行動
	D. 危機(クライシス)	a. 危機の概念 b. 危機介入 c. 危機と予防
	E. 発達段階と精神の健康	a. 乳幼児期 b. 児童・思春期 c. 青年期 d. 成人期 e. 老年期
2. 精神看護の基本概念	A. 生物学的側面	a. 脳の部位と精神機能 b. 神経伝達物質と精神機能 c. 脳の脆弱性モデル d. 免疫機能と概日リズム e. 睡眠
	B. 心理学的側面	a. 精神情緒の発達 b. 転移感情 c. 自我の防衛機制 d. 集団力動 e. ストレスと対処 f. 適応理論
	C. 社会的側面	a. 偏見・差別・ステイグマ b. 施設症 c. 精神の健康を守る行政システム d. 健康増進法 e. 自殺対策基本法

大項目	中項目	小項目
		f. 発達障害者支援法 g. 犯罪被害者等基本法 h. 児童虐待の防止等に関する法律 i. 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律
	D. リエゾン精神看護	a. 心身相関と健康 b. 身体疾患をもつ人の精神の健康 c. 精神疾患をもつ人の身体の健康 d. 患者と家族の精神の健康 e. 看護職員の精神の健康
	E. 看護理論	a. 対人関係の看護論 b. セルフケア理論
3. 看護援助技法	A. 精神症状のアセスメントと援助	a. 不安状態 b. 抑うつ状態 c. 躁状態 d. 幻覚 e. 思考内容と思路の障害 f. 強迫思考・強迫行為 g. 意識の変容 h. 記憶障害 i. 離脱症状 j. 知的機能の障害
	B. セルフケアと援助	a. 空気・水・食物の十分な摂取 b. 排泄物と排泄のプロセスに関するケア c. 体温と個人衛生の維持 d. 活動と休息のバランスの維持 e. 一人でいることと社会的相互作用のバランスの維持 f. 安全を保つ能力
	C. リエゾン精神看護の技法	a. 支持的面接 b. 心身相関の考え方に基づくホリスティックケア c. リラクセーション d. 患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進
4. 精神科治療と看護	A. 精神疾患の診断基準	a. 統合失調症 b. 気分障害

大項目	中項目	小項目
		c. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 d. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 e. 精神作用物質関連障害 f. 人格障害 g. 器質性精神障害 h. 精神遅滞 i. 発達障害
	B. 臨床検査	a. 脳波検査・脳の画像検査 b. 心理検査 c. 脳脊髄液検査
	C. 薬物療法	a. 抗精神病薬 b. 抗うつ薬 c. 気分安定薬 d. 抗不安薬 e. 睡眠薬 f. 抗てんかん薬
	D. 症状マネジメント	a. 服薬自己管理 b. 心理教育
	E. 精神療法	a. 個人精神療法 b. 集団精神療法 c. 認知行動療法
	F. リハビリテーション療法	a. 作業療法 b. 芸術療法 c. 生活技能訓練< SST >
5. 安全な治療環境の提供と人権擁護	A. 患者の権利擁護	a. インフォームドコンセント b. 入院患者の基本的な待遇 c. 精神医療審査会 d. 隔離、身体拘束
	B. リスクマネジメント	a. 病棟環境の整備と行動制限 b. 自殺・自殺企図・自傷行為 c. 攻撃的行動、暴力 d. 災害時地域精神保健医療活動

大項目	中項目	小項目
6. 精神保健医療福祉の歴史と法制度	A. 精神保健医療福祉の歴史と看護	a. 欧米における精神科医療の歴史 b. 日本における精神科医療の歴史 c. 精神保健医療福祉における看護師の役割
	B. 精神保健福祉の法制度	a. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の基本的な考え方 b. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. 保護者 e. 心神喪失者等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察に関する法律の基本的な考え方
7. 精神障害者のリハビリテーション	A. 社会復帰・社会参加の基本	a. リハビリテーションの概念 b. 国際生活機能分類(ICF) c. 精神障害者ケアマネジメントの基本的な考え方 d. 長期入院患者の退院支援
	B. 保健医療に関する資源の活用と調整	a. 保健所、市町村、精神保健福祉センター b. 精神科デイケア、精神科ナイトケア c. 訪問看護、精神科訪問看護
	C. 福祉に関する資源の活用と調整	a. 自立支援医療 b. 居宅介護<ホームヘルプ> c. 行動援護 d. 生活介護 e. 短期入所<ショートステイ> f. 共同生活介護<ケアホーム> g. 施設入所支援 h. 自立訓練<生活訓練> i. 就労移行支援 j. 就労継続支援 k. 共同生活援助<グループホーム> l. 地域生活支援事業 m. 精神障害者保健福祉手帳
	D. 人的資源の活用と調整	a. 保健師 b. 精神保健福祉士 c. 作業療法士

大項目	中項目	小項目
		d. 精神保健福祉相談員
		e. セルフヘルプグループ
		f. チーム医療